



ま ちかど インタビュー

町の農業復活へ 3年ぶりの田植え 青々と輝く苗が植えられました

町では、原発事故の影響でコメの作付けを2年連続で自粛しましたが、今春作付けを再開し、3年ぶりに田植えが行われました。

青々と育ち、やがて、風に波打つ黄金の稲は、きっと町民の皆さんを励ますことでしょう。
今回、町の農業復活に向けた感想をお伺いしました。



横田 和希 さん
(上北迫・一本松)

くの水田を黄金色に実らせ、トンボが飛び交う風景に戻していきたいです。

私は、今年度、水稻の作付けが再開になり、とても嬉しく思います。本来の広野町の姿（震災前）に戻すには、多くの水田に田植えすることが農業復興の第一歩だと思い、約10haを作付けしました。双葉郡ということですが、来年、再来年と多



青々とした苗が植えられた水田



猪狩新一郎 さん
(下北迫・大谷地原)

稲作り56年になります。これまで2回ほど心に残る冷害がありました。本年は、復興事業を行った2・5haを作付け、順調な天候であれば豊作と思われます。

また、畑作も多くの野菜を作付け、検査をしています。ほとんどの野菜は10ベクレル以下です。

安全でうまい野菜を、おいしい米を夢見て毎日作業しています。

来年は一人でも多くの人が作付けされるよう期待しています。

編集後記

早いもので、東日本大震災と福島第一原発事故から3年目に入り、災害公営住宅をはじめ、広野駅東側開発整備事業が開始されたのを見ると、復旧から復興へと動き出した感じがします。

また、3年ぶりとなる田植えが行われ、すくすくと育っている美しい田園風景を見ることがいよいよ農業も本格的な再生が始まりました。広野町町民憲章にある

「あしたに希望をもち、たくましく前進する町にします」このことを合言葉にして、町民の皆様と一緒に、広野町の復興再生を目指して、すばらしいまちづくりを推進して行きたいと思います。

(北郷 幹夫)

次の定例会は9月です



奈良時代の生活のようすを学ぶ小学生（桜田Ⅳ遺跡）

発行・編集責任者

議長 鈴木紀昭

広報委員会

委員長 渡邊正俊

副委員長 北郷幹夫

委員 塩 史子

委員 渡辺久長

委員 畑中大子

委員 小磯利雄